



2期生(2023年度着任)と3期生(2024年度着任)による交流会の様子。自己紹介を兼ねてそれぞれの研究紹介を行った。

博士研究人材の 早期育成とキャリア形成を支援

若手研究者を特任教員として採用・育成するアンビシャス特別助教制度

2022年、本学は優秀な博士人材の早期育成と多様なキャリアパス形成を目的としたアンビシャス特別助教(以下「特別助教」)制度を創設しました。本制度は、高い潜在力と研究意欲を持つ優れた博士人材を特任教員として早期に採用・育成することで、本学の研究・教育に寄与できる若手研究者ポストを確保。制度創設以降、2024年度までに32名の若手研究者を採用しています。

特別助教の特徴は、博士人材フェローシップ事業*における出口確保の取り組みとして一体的に実施することで、

一貫した若手研究者の人材育成制度を確立する点にあります。アカデミアを志す人材に限らず、起業・民間企業への就職を想定した研究を行う人材や、博士人材フェローシップ不参加の博士課程学生も含め、要件に合致する候補者を広く募集。選考では、専門分野において優秀であることに加えて、研究内容やキャリアパスの考え方が柔軟であることや開拓志向の強さも評価されます。

※修士課程から博士後期課程に進学する優秀な人材の確保を図るため文部科学省が採択するプログラム。本学は、アンビシャス博士人材フェローシップとDX博士人材フェローシップの後継事業として2024年4月よりEXEX博士人材フェローシップを創設。

研究力と社会性を養う多彩な育成プログラム

在任期間中は、最適な研究環境で研究力を向上させるとともに、本学が提供するスキルアップのための多様なプログラムに参加します。配属先の研究室等で研究力の向上を図るだけでなく、創成研究機構が提供するプログラムに参加することで、教育力やマネジメント能力、キャリアパス選択のための能力等、専門分野+αの力を身に付けます。

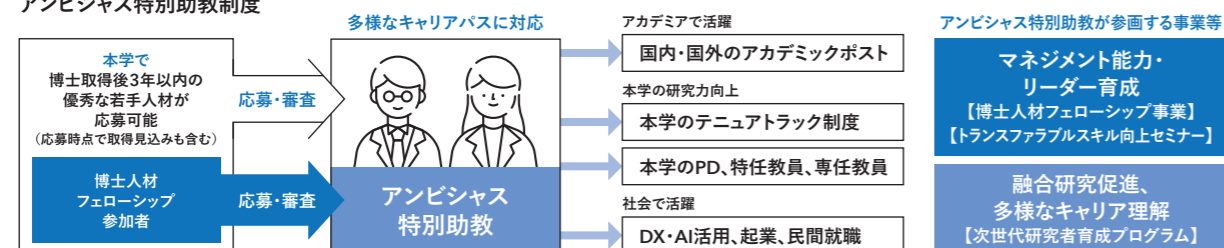
【創成研究機構が提供するプログラム】

- 1.多観点で行う研究者交流会
- 2.研究者のためのSDGsセミナー
- 3.研究成果を活用した社会実装関連セミナー

【北海道大学、東北大学、名古屋大学の連携プログラム】

- ①トランスファラブルスキル向上セミナー
- ②実験機器利用支援(東北大学、名古屋大学の実験機器の利用)
- ③宿泊施設利用支援(東北大学、名古屋大学の宿泊施設の利用)

アンビシャス特別助教制度



多様な分野で活躍する特別助教

本制度では、ダイバーシティ&インクルージョン推進の取り組みとして、研究分野・国籍・性別に制限を設けず、多様な人材を採用しています。

アンビシャス特別助教制度の研究者(2024年4月1日現在)

採用年度	所属	氏名	研究分野
2023年度	創成研究機構/低温科学研究所	波多 俊太郎	氷河学、衛星リモートセンシング
	創成研究機構/保健科学研究所	羅 云潔	母子看護学、異文化看護、ヘルスサイエンス
	創成研究機構/文学研究院	モルナール レヴェンテ	映画研究
	創成研究機構/工学研究院	豊原 涼太	バイオメカニクス
	創成研究機構/工学研究院	米沢 安成	制御工学、最適化、機械工学
	創成研究機構/先端生命科学研究所	大平 修也	粘膜免疫学
2024年度	創成研究機構/地球環境科学研究所	朱 妍卉	生態系変動解析分野
	創成研究機構/総合博物館	王 婷	環境地理、レクリエーション・エコロジー
	創成研究機構/工学研究院	許 開軒	動物考古学、文化財科学
	創成研究機構/工学研究院	金浜 瞳也	材料力学、構造力学、植物形態模倣
	創成研究機構/工学研究院	チカンダ フランセス	環境地質学、持続可能な資源工学
	創成研究機構/工学研究院	薛 高格	金属疲労
	創成研究機構/保健科学研究所	安田 佳永	基礎看護学、基礎看護学、看護技術
	創成研究機構/保健科学研究所	曾 怡	健康科学、環境疫学
	創成研究機構/農学研究院	中村 亮太	開発経済学
	創成研究機構/電子科学研究所	越後谷 駿	原生物学、動物行動学
	創成研究機構/教育学研究院	吉田 弥生	社会教育、生涯学習

【アンビシャス特別助教制度の概要】

🌐 https://l-station.cris.hokudai.ac.jp/overview_asap/



【研究者紹介 アンビシャス特別助教】

🌐 <https://l-station.cris.hokudai.ac.jp/researcher/type/special-ap/>



異分野の研究者との交流を通じて広がる視野

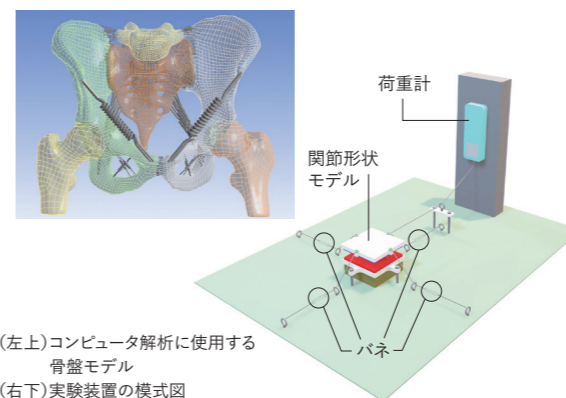
工学研究院の豊原涼太特任助教は、2023年度にアンビシャス特別助教制度により採用されました。研究テーマはバイオメカニクス分野における仙腸関節の表面形状と運動様式に関する研究です。

「仙腸関節とは、ヒト骨盤内の仙骨と腸骨の間にある関節で、腰痛疾患に関連すると考えられているのですが、その構造や機能の研究がほとんどされていませんでした。関節の可動域が1mm以下という特殊な形状であるため、運動との関連性も解明されていません」

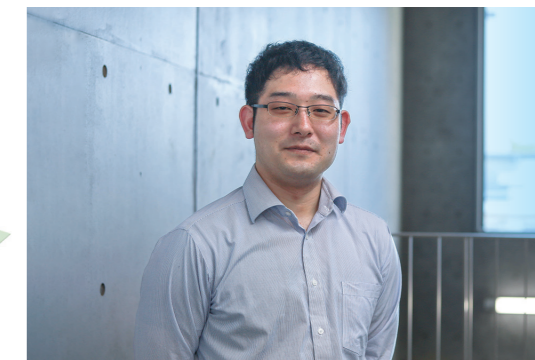
近年、コンピュータシミュレーション技術の発展により、X線CT画像やレーザースキャンデータ等を活用して関節表面形状

データを作成することが可能になりました。豊原特任助教はこれらの技術を利用し、3Dプリンタによるモデル等をもとに形状を解析。関節摩擦特性と関節液流動特性の2側面から実験的・解析的に検証を行っています。

「特別助教制度を利用したことで、資金面や研究環境での支援を受けることができました。大学院から継続して研究が続けられることは大きなメリットだと思います。さらに、育成プログラムの中で、異分野の研究者と交流したり、博士課程の学生の教育に携わることで視野が広がりました。社会実装コンサルテーションで学外の人からアドバイスを得られるのも、自分の研究範囲を広げるきっかけになっています」



(左上)コンピュータ解析に使用する骨盤モデル
(右下)実験装置の模式図



工学研究院 特任助教 豊原 涼太 TOYOHARA Ryota